

特定非営利活動法人都市生活コミュニティセンター 第14回通常総会開催

6月20日に神戸市東灘区民センターで都市生活コミュニティセンター(以下、TCC)第14回通常総会を開催しました。正会員総数34名のうち32名が出席しました(書面議決含む)。審議は以下の5つの議案について行われ、全ての議案が可決承認されました。

◆第14回通常総会議案

第1号議案 2014年度事業報告及び活動計算承認の件

第2号議案 2015年度事業計画及び活動予算決定の件

第3号議案 定款一部変更の件

第4号議案 役員報酬等規程の承認の件

第5号議案 理事の選任の件

第3号議案の定款変更は、今後の事業展開に備えて、事業内容に「介護保険法に基づく小規模多機能型居宅介護」「高齢者向け住宅の管理・運営および経営」の2項目を加えたものです。

第4号議案の役員報酬等規定は、役員報酬や費用弁償についての規定を改めて定めたものです。

◆2015年度計画のあらまし

◎介護保険事業

介護保険事業は「あ・し・す・と」「あしすと武庫之荘」「あしすと神戸北」の3事業所で展開しています。訪問介護事業のサービス提供時間の合計は16,879時間で前年度比94.8%、利用高は前年度比99%の6,828万円の微減となりました。2015年度には介護

報酬の改定もあり、減収が想定されます。介護福祉士、居宅介護支援専門員の資格取得をすすめ、地域の関連団体との連携をはかり、より強固な運営基盤を構築します。長期的な事業継続を見据えて新規メンバーの獲得に努めます。

◎施設管理事業

サービス付き高齢者向け住宅「ソーシャルコート神戸北」運営事業は8年目となり、年間の平均入居率は93%で目標の9割台を維持しました。これからも入居者の方々へのトータルなサービス提供を行い、引き続き安定化に努めます。

◎ボランティア部門

好評な「熟年セミナー」は、2014年度は2回の開催に留まった点を踏まえ、「認知症」を年間テーマに設定し、年4回の開催を目指します。また脱原発をめざす勉強会等を企画します。

地域でのボランティアの取り組みとして、「ふれあい喫茶」「ミュージックセラピー」「シャンシャンの会」の活動を継続します。

引き続き、東日本大震災の被災地支援活動を、生活クラブ都市生活・エスコープ大阪の組合員とともに取り組みます。

◎2015年度からの新たな取り組み

2014年度は「地域福祉構想プロジェ



クト」を設置し、年度途中からは「あしすと武庫之荘」が拠点を置く民間住宅の再開発計画の具体化を目指して検討を進めてきました。現在、サービス付高齢者向け住宅と小規模多機能型居宅介護事業を組み合わせた形態での事業展開を検討しています。2016年度の運営開始を目指して、今年度は準備を進めています。

引き続き取り組んできた認定NPO法人は、2015年2月に兵庫県に申請を行い、5月と7月の2回の調査を経て、今年度前半に認定を受ける見通しです。

◎都市生活コミュニティセンター役員

今回は役員改選の年で、島村美穂氏が理事を退任し、山下尚子氏を新たに理事に迎えました。

▼2015年度役員

理事長：林佳子、副理事長：佐々木京子、理事：池田啓一、石川雅可年、岡部真紀子、角田学、福田和昭、松井初代、山下尚子、監事：井上肇、王隠堂政見

(TCC 事務局長・福田和昭)

4年3ヶ月目の被災地

東北被災地理事研修

6月2日～4日の3日間、生活クラブ都市生活とエスコープ大阪の東北被災地理事研修を行いました。都市生活コミュニティセンターでは東日本大震災支援プロジェクトの事務局として企画の立案・調整を担当しました。

写真を中心に被災地の様子をご報告します。



再建された重茂漁協のアワビ稚貝養殖施設。震災で減った販路の回復が課題。



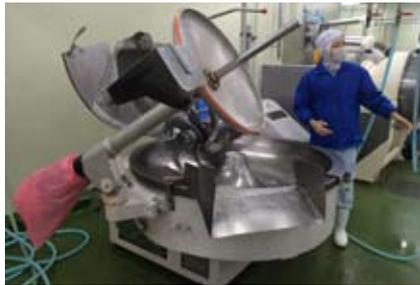
震災翌年に工場を再建した長根水産。手作業の鮭フレーク製造過程を見学。



町職員も犠牲になった南三陸町旧防災庁舎。この後当面の保存が決定された。



共生地域創造財団の支援先、女川ママサポーターズの八木さん。被災建物をカフェにして地元の就労の場に。



高橋徳治商店の新工場を見学。震災当時にボランティアが清掃した機械を修理して今も大切に使われています。



青空市の支援をしてきた福島県新地町。仮設住宅からの高台移転が進む。



津波で壁だけが残っていた新地町漁協の建物。4年を経て解体が始まった。



土地の嵩上げや防潮堤建設が沿岸一体で実施中。工事車両の多さに驚きます。



共生財団の支援先 WATALIS の製品は好評で仙台空港でも扱われています。

熟年セミナー「認知症ケアの基本」

グループホーム結いのき(山形県米沢市)ホーム長 松本由美子氏講演会



6月20日、総会の特別企画として熟年セミナーを開講しました。講師はグループホーム結いのき(山形県米沢市)ホーム長で生活クラブやまがた生活協同組合常務理事の松本由美子さん。

講演の中では松本さんご自身の活動の経歴、福祉事業に取り組むきっかけとなったエピソードから、宅老所やグループホームでの活動、組合員からの相談など多種多様な状況下で認知症の方やご家族の方と向かい合い、ともに歩んできた事例をたくさん紹介頂きました。

参加者の感想から：「たくさんの事例をお話いただきましたが、笑ってしまうようなエピソードも本当は大変なことばかりだと思えます。それを大きな優しさ、ものすごい行動力、適切な判断で対応さ

れている事に感動します、単なる介護施設ではなく地域に開かれた施設、協同組合としての役割りを大事にされているのが素晴らしい」

「班活動がコミュニティの原点であるというお話が心に残りました。プロではなく親の介護を考える立場の者にも役に立つ事例がいろいろ聞けて良かったです。」
「私の周りには認知症の方がたくさんいました。みんな病院にお世話になりました。(略)相手に対しての接し方が参考になりました。」

なお次回の熟年セミナーは秋の開催を予定しています。